

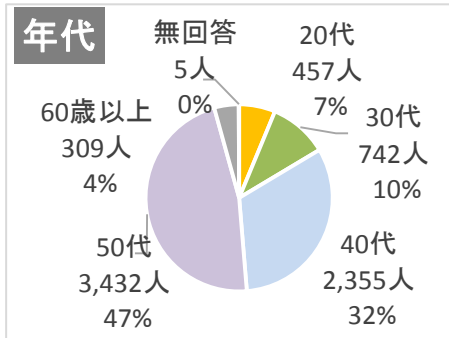
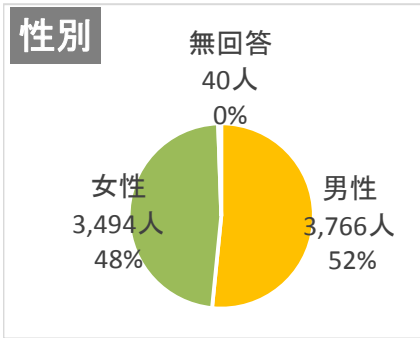


# 「保健事業」に関するアンケート調査結果



公立学校共済組合秋田支部では、組合員の皆様のニーズを踏まえた保健事業を実施するため、平成30年10月に全組合員を対象にアンケート調査を実施しました。その集計結果をお知らせします。

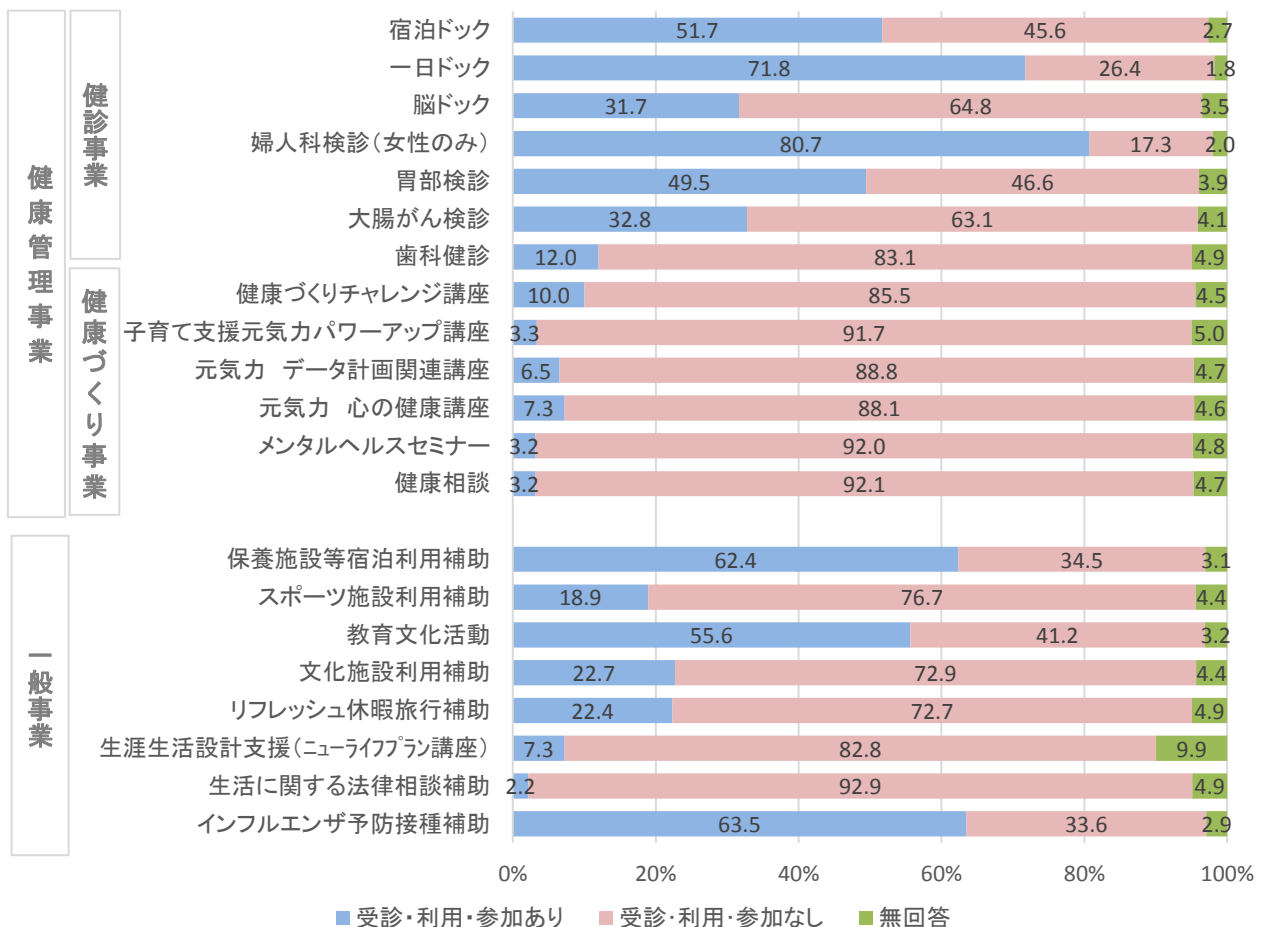
対象者・・・8,992人（H30.10.31現在組合員数） 回答者・・・7,300人 回答率・・・約81.2%



ご協力  
ありがとうございました

## Q1 (1) 保健事業(健康管理事業・一般事業)の利用状況(受診・利用・参加の有無)について

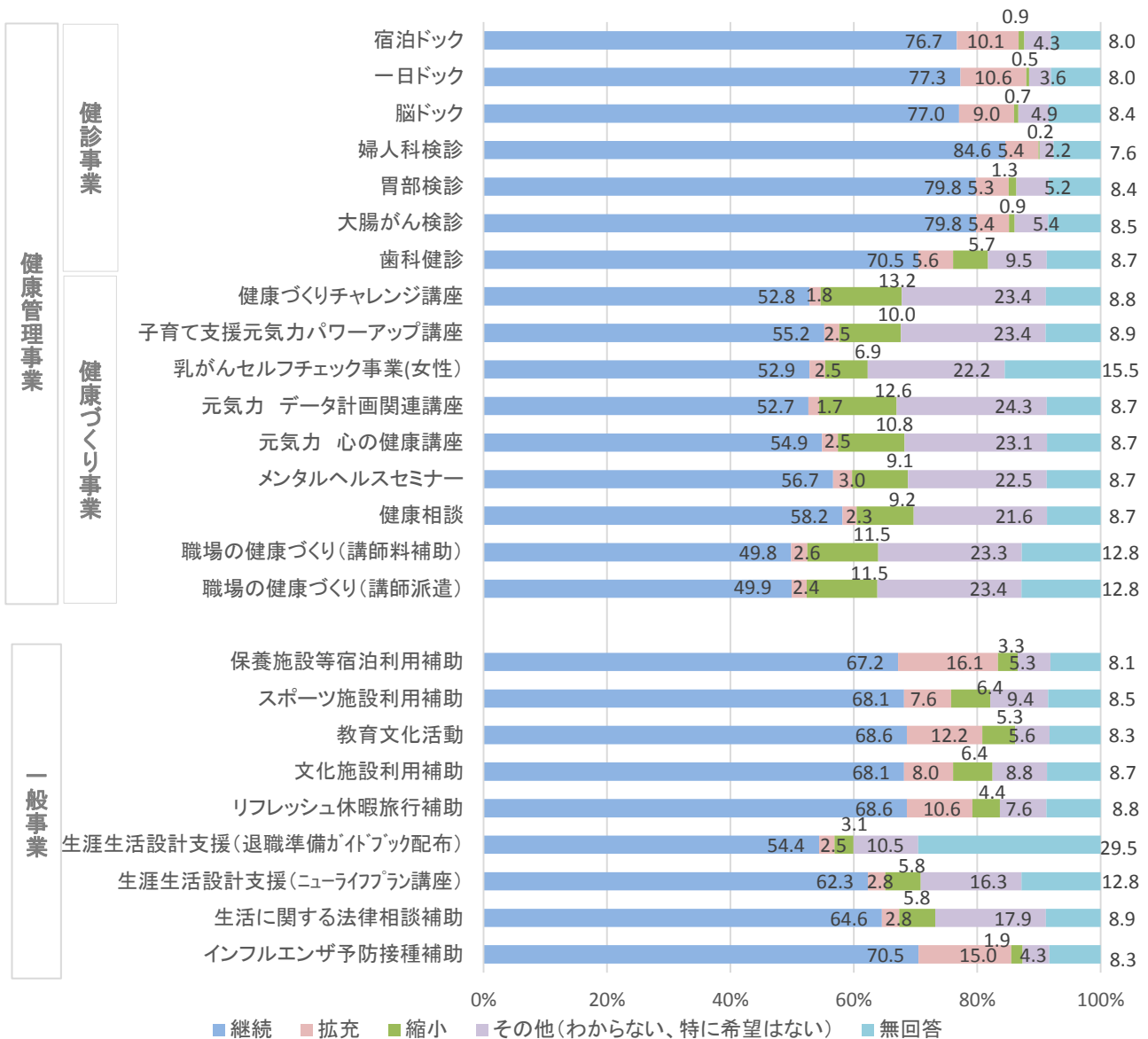
健康管理事業において、利用率が高かったのは「婦人科検診」、「一日ドック」、「宿泊ドック」でした。利用率が低かったのは「健康相談」でした。一般事業において、利用率が高かったのは「インフルエンザ予防接種補助」、「保養施設等宿泊利用補助」、「教育文化活動」でした。利用率が低かったのは「生活に関する法律相談補助」、「生涯生活設計支援(ニューライフプラン講座)」でした。  
(「子育て支援元気カパワーアップ講座」と「メンタルヘルスセミナー」は対象者が限定されるため、上記から除いています)



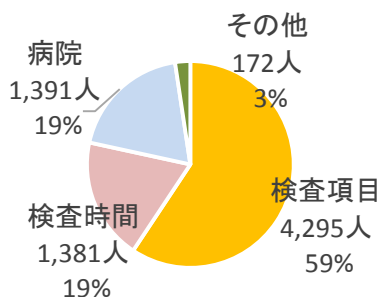
## Q1 (2) 保健事業(健康管理事業・一般事業)について、今後どうすべきか

すべての事業において、「継続、または、拡充」を希望する意見が多く、健診事業全般と「保養施設等宿泊利用補助」、「文化施設利用補助」、「インフルエンザ予防接種補助」では80%を超えました。

縮小すべきという意見が10%を超えたのは、「健康づくりチャレンジ講座」、「子育て支援元気カパワーアップ講座」、「元気カパワーアップ(データ計画関連)講座」、「元気カパワーアップ(心の健康)講座」、「職場の健康づくり」でした。

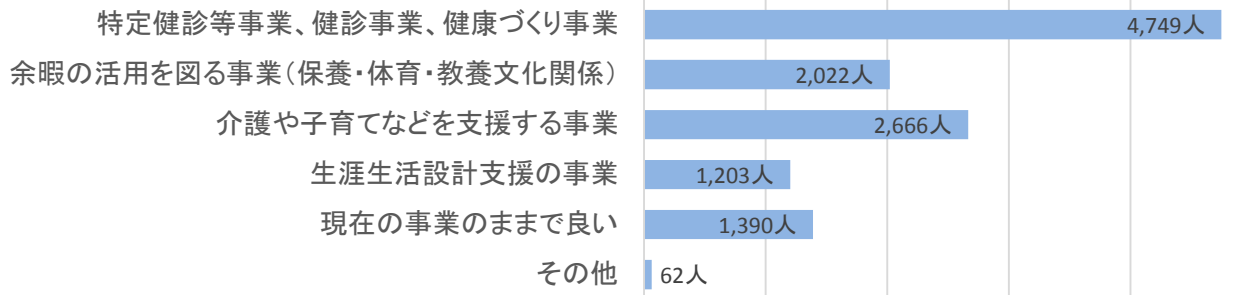


## Q2 人間ドック(宿泊ドック・一日ドック・脳ドック)の申し込み選択基準



59%の方が「検査項目」を基準として種別を決定しているという回答でした。「検査時間」と「病院」を基準としている方は、ともに19%でした。「その他」では、「自己負担が少ないこと」や、「全種類を順番に受けられるようにしている」という選択基準があげられました。また、「かかりつけの他機関で受診するため、申し込まない」、「人間ドック受診を希望しない」という意見もありました。

### Q3 今後、どのような保健事業に力を入れていくべきか(2つまで選んで回答)



「特定健診等事業、健診事業、健康づくり事業」に力を入れるべきだという意見が最も多く、4,749人でした。「介護や子育てなどを支援する事業」は2,666人、「余暇の活用を図る事業」は2,022人、「現在の事業のままで良い」は1,390人、「生涯生活設計支援の事業」は1,203人となりました。

その他の意見として、「健診事業のみで良い」、「利用率の少ない事業は廃止すべき」といった意見がありました。

### Q4 健康管理事業 Q5 一般事業 について、新たにどのような事業の実施を希望するか

「新規事業」実施よりも、「現状維持」を望む意見が多くあげられました(健康管理事業257件、一般事業205件)。次いで、事業全体・各事業ともに、「助成対象や額を増やす」といった意見も目立ちました。健診事業と教育文化活動事業では「希望者全員が受診・当選できるように」との意見も多く寄せられました。

「事業についてのPRが足りないのではないか」というご指摘や、「利用率が低い事業の見直し・縮小」を希望する意見もありました。それ以外の主な意見は以下のとおりです。

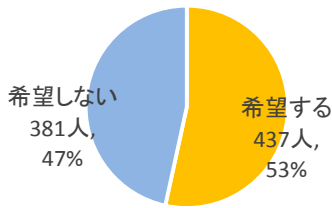
#### <健康管理事業>

#### <一般事業>

項目	内容	項目	内容
新規事業	眼科検診、健康講座、生活習慣病予防・ダイエット講座(食事・運動)、健康グッズ等の購入助成	新規事業	映画鑑賞助成、スポーツ観戦助成、介護支援・講座、予防接種の種類を増やす、レジャー施設利用補助、交通機関利用補助、マッサージ・整体利用補助、入浴施設利用補助
健診事業	がん検診(PET、腫瘍マーカー、検査部位増)、骨密度検査、20代から利用できる検診を増やす	宿泊施設利用補助	助成増額・回数を減らす、回数を増やす
人間ドック	毎年・隔年受診、宿泊ドックの継続、一日ドックの検査項目を増やす、宿泊・一日ドックと脳ドックの両方を受診可能に	スポーツ施設利用補助	スキー場・トレーニングジム・スポーツクラブ等を対象に
胃部検診	バリウム検査から内視鏡検査へ変更	教育文化活動	対象公演の種類・数を増やす
健康づくり事業	仕事としての参加を可能に、職場で実施	文化施設利用補助	美術館の特別展も対象に
心の健康	セミナーを全職員に実施、メンタルヘルスケア全般の充実	リフレッシュ旅行補助	利用条件の緩和(期間・曜日)、旅行以外も補助の対象に
		生涯生活設計	退職後についての相談、若者向け講座
		インフルエンザ予防接種補助	被扶養者も対象に

一般事業では、「申請の簡易化」、「後日の申請を可能に」、宿泊・スポーツ・文化施設利用補助について「利用可能な施設を増やす」という希望が多数ありました。

## Q6 禁煙外来にかかる費用を共済が一部補助とした場合、利用したいか(喫煙者のみ回答)

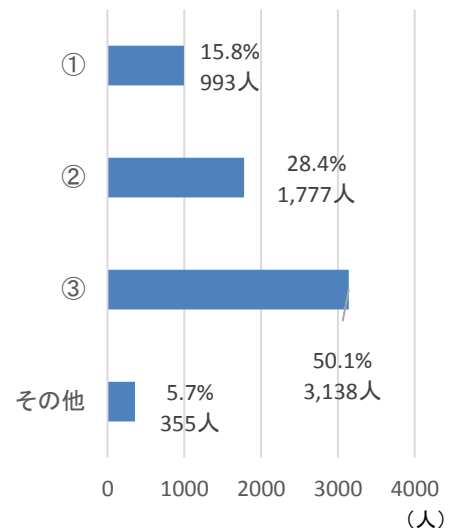


回答者のうち、禁煙外来補助を希望する人は53%、希望しない人は47%でした。

希望しない理由としては、「禁煙する気がない」、「まだ禁煙しようとは思わない」、「禁煙するとしても、外来を受診する予定がない」、「自己責任なので自己負担です」、「自分の意思でやめる」、「通院する時間がない」、「全額補助ではないため」、「やめられないと思うから」といった意見がありました。

## Q7 「個人の予防・健康づくりに向けたインセンティブ(ご褒美)を提供する取組」について

- ① チームでの参加で、運動習慣の定着、職場のコミュニケーションづくりにウォーキンググランプリを実施。職場等の単位で3人1組のチームを作り、1~2ヶ月間でのチームの合計歩数を競う。参加賞、成績優秀者への賞品(健康グッズ等)の贈呈。参加者には万歩計を配布。
- ② 個人の参加で、運動習慣の定着のためウォーキンググランプリを実施。個人の参加で、1~2ヶ月間での合計歩数を競う。参加賞、成績優秀者への賞品(健康グッズ等)の贈呈。参加者には万歩計を配布。
- ③ Webサイトにログインし、自身の歩数記録、体重、健康イベント参加等入力すると、ポイントが付与され、年度単位でポイントを好きな賞品と交換できる。(インターネット環境上で、各自で初期登録、記録の入力が必要)



③のWebサイト利用でポイント付与が約半数の50.1%となりました。次いで多いのが②の個人で参加のウォーキンググランプリで28.4%、①のチームで参加のウォーキンググランプリが15.8%でした。

なお、ウォーキンググランプリをやってみたいという意見は、チーム参加と個人参加を合わせると、44.2%となります。

その他として、「取り組む時間が取れない」、「業務で疲れている」といった意見や、「普段から健康づくりを意識しているので、この事業の必要性が感じられない」という意見もありました。また、健康づくりの取組みには賛成でも、インセンティブを提供することに疑問を呈される方もおりました。

ご多用中にも関わらず、たくさんのご意見をお寄せくださり、ありがとうございました。  
このアンケート結果は、今後の事業の参考にさせていただきます。

